

I まず神の恵みを覚え感謝したい。「キリストは自ら、十字架の上で、私たちの罪（神から離れ、神への背き、淫らな行い、汚れ、貪り、欲張り、わいせつなこと、下品な言葉、憎しみ、恨み、悪口）をその身に負われた（私達の身代わりに、私たちのすべての罪の罰を受けられた。罪の赦し、永遠の命、新しい命が与えられる救いの道を設けられた）。それは、私たちが罪を離れ、義（義である神、神の喜ばれる事）のために生きるため」I ペテロ2：24

II まず神に愛され救われ聖別された聖徒として「聖徒にふさわしく」生きる

1. 「あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、淫らな行いも、どんな汚れも、また貪りも、口にすることさえしてはいけません」：3。汚れた口の言葉は、ただの発音ではない。自分の心や人に悪影響を与える。「淫らな行い」：不道德な性関係、夫、妻以外の異性との性的な関係→夫婦関係、親子関係を壊す。聖霊の宮とされた体が病に侵される。「淫らな行いを避けなさい（近づかない）。…淫らなことを行う者は、自分のからだ（神から与えられた）に対して罪を犯すのです。あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮（聖い聖霊が住んで下さるところ）であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。あなたがたは、代価（罪のない主の十字架の血、命）を払って買い取られた（滅びから買い取られた、神のものとしてされた大切な体）のです。ですから、自分のからだ（神のものとしてされたからだ）をもって、神の栄光（神の御性質、神の素晴らしさ）を現わしなさい」（I コリント6：18-20）。「どんな汚れも」。汚れ：不潔、不道德。対処する御言葉＝「御霊によって（御霊に拠り頼んで）歩みなさい。そうすれば決して肉の欲望を満足させるようなことはありません」（ガラテヤ5：16）。「またむさぼりも」。むさぼり：貪欲、欲が深い。受けても受けても満足せず欲しがる心。神に与えられているもので満足せず、感謝の心がない。むさぼりに対処する御言葉＝「金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身（すべての必要の与え主）がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない」（ヘブル13：5）。「口にすることさえいけません」。罪は行いだけではなく、心、想像、思いと言葉で始まっている。言葉くらいと軽く捉えてはいけない。不品行、汚れ、むさぼりの言葉は、その場を、自分と人々を悪に染める。「口にすること」という言葉は、「名づける、名を称える」の意。主に救われた私達の口は、主の名を称える、呼ぶ、賛美する口である。聖なる主の名を呼ぶ口で、その同じ口で不品行、汚れ、むさぼりを口にするのは相応しくない。「主の名を呼ぶ（「口にすること」と同じ原語）者は、だれでも不義（神の喜ばれない悪）を離れよ」（II テモテ2：19）。自分の不義、罪を悔い改める時、神は、もっと私達に近づいて下さる。感謝！

2. 避けるべきもの。「また、みだらなことや」。みだらなこと：見苦しさ、いやらしさ、下品、卑猥。私達の中におられる主は、愛と聖い品性のある方。「愚かなおしゃべり」：馬鹿話、くだらないおしゃべり。私達の中におられる主の喜ばれる事＝「必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい」（エペソ4：29）。「下品な冗談」：下品なおどけ。※「下品」とある。下品とあり、下品ではない冗談、ユーモアは否定されていない。キリスト者の交わりは、主を中心とした聖さと同時に愛ある暖かい、和む交わり。肩の凝るような堅苦しい交わりではない。ユーモアのある和ませる交わりは幸い。私達と共におられる主は聖い方であり、また、愛に満ちた和ませる方。※「らくだが針の穴を」というユーモアは弟子達の笑いを誘ったことだろう（「イエスの生涯」P224、内田著）。

III 主にある聖徒の人生は、悪い事を避けるという消極面だけではなく、主にある新しい命に生かされる積極面のある人生。「むしろ、口にすべきは感謝のことばです」：4。むしろは、積極的な人生のみことば。む

しろ＝しかし、むしろ、もっと、更に、一層、ますます、かえって。むしろ「感謝のことばです」の原語：有り難く思いなさい、感謝の言葉を述べなさい、礼を言いなさい。神から与えられた口を不品行な事、愚かな話に用いるのではなく、むしろ、感謝する事に用いなさい。神への感謝は、私たちを聖め、わいせつな言葉、貪欲を追い出す。「むしろ、口にすべきは感謝のことばです」の御言葉を私達が本気で日々、実践するならどんなに人生が豊かになるだろう。感謝の言葉こそ、聖徒にふさわしいもの。みだらな事、不平不満に人生を費やすか、むしろ感謝する事を選ぶかで人生は大きく変わる！不平不満は、自然に出て来るが、感謝は、心がけ、意識しないと出て来ない。「感謝のことば」を心込めて神と人に言いたい。主の恵み、人の親切を数え、書き記す事は恵み。※積み重ねは、良い習慣へ。主の恵みの発見、心に喜びが！

1. 神に、毎日、事ある毎に感謝したい。何一つ当然な事はなく、有り難く思い、感謝の気持ちを祈りでお伝えしたい。食べ物、着物、住まい、命、こんな罪と欠点の多い私を愛されている事、罪の赦し、永遠の命（神と永遠に交われる命）、日々共にいて下さる恵みを感謝したい。

2. 夫、妻、子供、家族に、辛く当たるのではなく、感謝の言葉を具体的に述べたい。愛は、愛しているつもりではなく、愛が、伝わっているかが大切！仕事、家事、贈り物を心から感謝したい。何一つ当然ではない。

3. 神が招かれた神の家族、教会の一人一人への感謝。神が愛されている一人一人の存在を感謝。祈られている事を感謝。一人一人の奉仕を感謝したい。お互いに励まされる。「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい」コロサイ3：15。

4. 隣人への感謝。感謝は、神を喜ばせ、人を励まし、生かし、自分自身にも喜びと信仰の成長が与えられ、人々への良き証しとなる。※神から与えられた口を挨拶に用いる事も人生に幸いを与える。証し。

5. 神がすべてを益に変えて下さる恵み（ローマ8：28）への感謝。人生には、悲しみ、苦しみ、失敗がある。しかし、すべてを支配しておられる神は、それら、一つ一つを用いて、私達を神に近づけて下さる。神に拠り頼む者に私達を変えて下さり、神は、耐えられない試練に会わせず、脱出の道、解決の道を与えて下さる。すぐにではなく、神の時に！忍耐して祈りましょう。

6. 「あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、すでにきよいのです」ヨハネ15：3。主は、私達を、みことばにより、きよめ続けて下さる。感謝！日々、みことばを味わいたい。

7. 「キリストが傷のないご自分を、とこしえの御霊によって神にお献げになったその血（十字架の血）は、どれだけ私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者にすることでしょう」ヘブル9：14。主の十字架の血は、力があり、私達に罪の赦しときよめを与えて下さる。感謝！

8. 「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私達をすべての不義からきよめてくださいます」Ⅰヨハネ1：9。この御言葉の約束は、心から感謝すべき御言葉。私達は、洗礼を受けても、心に罪が残っているので、心と口、生活で罪を犯してしまう。失敗もする。神は、私達を見捨てず、正直に罪をおわびする時、赦し、きよめ続け、立ち上がらせて下さる。

祈り：不品行、汚れ、むさぼり、みだらなこと、愚かな話しを避け、むしろ、感謝する事ができますように。

その為に、私たちの心と口を聖めて下さい。心の王座に主よ、お座りください。